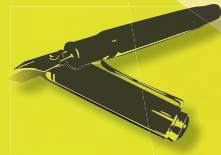


世界へ飛び出せ！

明大生 ー協定校留学日記ー



Vol.2 中東工科大学(トルコ)
～「異国」の成長市場から世界を見る～

商学部3年
井出 薫



アンカラ城から見る町

2013年9月より、私は、トルコ共和国の中東工科大学で学んでいます。中東工科大学は、首都アンカラにある国立の総合大学で、2011年1月に明治大学と協定協定を結びました。私は、明治大学が中東工科大学に派遣する最初の学生になります。

もともと、私は、投資や起業により社会に貢献することのできるような人間になりたいという夢を持っており、新しいビジネスの種子を探すことを一つの大きなテーマとして明治大学で勉強

してきました。留学を希望したのも、外国での経験の中にビジネスのヒントが見つかるのではないかと考えたからです。

ところで、私が留学先にトルコを選んだことに

は、意外な感じを持つ人がいるかも知れません。トルコは先進国ではありませんし、日本との関係が特別に深いわけでもないからです。しかし、私にとり、トルコは、3つの点で魅力的な留学先でした。

第1に、トルコという国が占めている地理的、歴史的な位置が、私には大きな魅力でした。

トルコは、アジアがヨーロッパに接する「汽水域」にあり、多様な文化が混濁し独特の社会を形作っています。イスラム圏における数少ない民主主義国家、世俗国家でもあります。

第2に、トルコは、ビジネスの現場として学ぶことの多い場所でもあります。人口約

Profile

井出 薫
Kaoru Ide

1991年生まれ 東京都出身
トルコ留学に関するブログ：<http://toruko-ryuugaku.blogspot.com>



学内のレストランにて

7500万人、平均年齢約30歳のトルコは、何よりもまず活気ある有望な市場であり（JICAによると、トルコに進出している日本企業の本数は今のところ150社を超える程度にすぎませんが）、今後は、日本企業によるトルコへの進出が加速するはずで、新興国を代表するこの国のビジネスの現場を今のうちに学生として見ておきたいと私は考えました。

しかし、第3に、留学先を決めるにあたり決定的に重要だったのは、中東工科大学という環境です。この大学はトルコの最難関の国立大学であり、授業はすべて英語で行われています。そのため、1つの街のような雰囲気



留学生たちで行う
クッキングパーティー

持つ自然豊かで広大なキャンパスには、トルコ国内ばかりではなく、ヨーロッパの国々やアジア、中東、そして北アフリカの国々など世界各国から多様な背景を持つ学生が集まっています。

ま

た、文系の学生も理系の学生も同じ1つのキャンパス内で勉強しているため、寮での生活、サークル活動、授業などで、文系/理系の区別なく、様々な学生と交流することができま。背景とする文化が異なり、知的関心も異なる学生たちと言葉を交わしたり議論したりすることは、興味深い知識や新たな考え方を学べるよい機会になっています。

私

がこの秋から履修している「起業論」です。この授業では、トルコ人起業家の成功談、失敗談を直に聞いたり、自分のビジネスアイデアを発表したり、チームを作り実際にお金を稼ぐグループワークに挑戦したりすることができま。知識を身につけ、一般的なビジネスの経験を積み、さらに、



緑豊かなキャンパス

成長市場における人脈の意味を考えるよい機会になっています。

な

お、この「起業論」は他学部からも学生を受け入れており、特に工学を専攻している理系の学生が多くいます。私のチームにも、私のようなビジネス専攻の学生だけでなく、機械工学専攻の学生がいます。エンジニアと一緒にビジネスプランを考える作業には以前から憧れを持っており、日本とは違う環境で具体的にこれ

を実践する機会が得られたことに満足しています。

先

進国への留学とは異なり、私の場合、新興国にはつきもの「不安定さ」に直面することから、学生と警官隊との激しい衝突や政府に対するデモを何度も目撃しました。また、世俗化されているとはいえ、トルコはイスラム教の国でもあり、日本とは異なる生活習慣に戸惑うこともありま。しかし、少しずつ慣れてくるにつれ、このような完全な「異国」での学生生活は、グローバル化した現代世界ではむしろ貴重なのではないかと考えるようになり、今では、この特殊な環境を自分の糧にするべく、積極的に行動するよう心がけています。

残

り半年余りになったこの留学生活を充実させ、将来は、留学で得た知識、経験、人脈などをもとに、投資と起業に新しい視点を持ち込み、社会に貢献できるようなれればと考えています。